

第2回再編整備後の木川南小学校校地活用検討会議 会議要旨

1 日 時 令和5年12月4日(月) 13時30分から14時30分

2 場 所 淀川区役所 5階 区長応接室

3 出席者

(委員)

山本委員、田中委員、中井委員

(淀川区役所)

岡本区長、橋本副区長、田口政策企画課長、山田市民協働課長

(マーケットリサーチ業務委託事業者)

株式会社 建設技術研究所 白永氏、小倉氏、小川氏

4 議 題

- (1) マーケットリサーチの業務委託について
- (2) マーケットリサーチ中間報告
- (3) 意見交換会

5 会議資料

- ・ 資料1 出席者一覧
- ・ 資料2 マーケットリサーチの業務委託について
- ・ 資料3 マーケットリサーチ中間報告

6 議事要旨

- (1) 田口政策企画課長から、資料2に関する説明を行った。
- (2) 株式会社 建設技術研究所 白永氏から、資料3に関する説明を行った。

質疑応答の内容は以下のとおり。

(委員)

- ・ 既存校舎の中には築年数が60年以上経過している建物もあるが、淀川区役所としては既存校舎を活用するという考えも持っているのか。

(淀川区役所)

- ・ 既存校舎の活用については、これから調査が必要という課題認識を持っている。
- ・ 小学校である間は大阪市教育委員会事務局所有の行政財産、統合後は区役所所有の普通財産に移管という扱いになる。しかしながら、区役所が小学校を維持して

いくためには維持費がかかってくる。校地活用のスキームとしては、事業用定期借地権設定、定期建物賃貸借等が選択肢として挙げられる。当区としては、地域防災拠点機能及び地域コミュニティ機能を残すためにも、土地の売却以外のスキームによる活用を検討している。校地活用の方策を検討するにあたり、まずは実現性のある活用アイデアについて整理を図るために市場調査を実施しているところである。市場調査の結果が出た後に、委員のみなさまのご意見もうかがった上で、校地活用の方策を検討していきたい。

(3) 委員からの意見等の概要は以下のとおり。

- ・ 木川南地域には地域活動ができる場所が木川南小学校校地しかないため、地域コミュニティ機能は維持していただきたい。
- ・ 運動場、講堂、及び防災備蓄倉庫については、どんな形であったとしても必ず残していただきたい。運動場は、災害時に一時避難場所として活用できる。講堂は地域活動で最も使用している。また、防災備蓄倉庫の物資については、地域の限られた予算で揃えているため、維持していただきたい。
- ・ 木川南小学校校地から地域防災拠点機能がなくなり、木川南地域が高齢者等にとって住みにくい地域になってしまうことは避けたい。そのため、地域防災拠点機能は維持していただきたい。
- ・ 講堂には冷暖房設備が備わっていないため、地域活動で使用した際に非常に困った経験があることから、現在の小学校の設備では夏に避難所として使用することは現実的に厳しいのではないかと感じている。また、既存校舎は一部雨漏りしているところがある等、老朽化している部分もあるため、個人的には更地にして活用するしかないのではないかと考える。一方で、更地にして活用する場合、新しい建物ができるまでは一時的に避難する場所がなくなってしまうという課題がある。
- ・ 校地活用方策を検討する上で、若い地域住民の意見についても反映する必要があると思う。数年先のことだけでなく、将来的な地域の発展も望んでいる。若い地域住民も興味を持つことができる施設で、かつ地域防災拠点機能が維持できるような施設ができればよいのではないかと考える。
- ・ もと淀川区役所跡地に整備予定である複合施設のように、例えば1階と2階が学校で、3階以上が住宅というような施設が理想的ではあると考える。
- ・ 企業は投資に対し収支が成り立つ活用方法を検討し、地域住民は地域住民にとって魅力のある活用方法を望む。今後の調査でうまく展開してほしい。